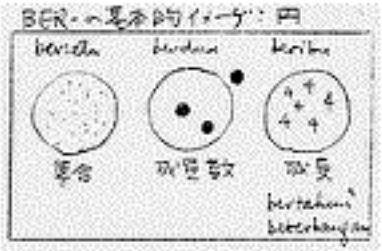
円とネズミと波平 --- BER 円体論

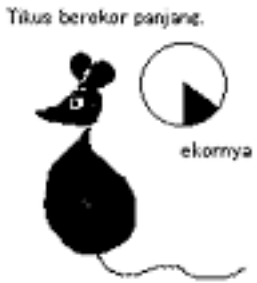


フリーハンドの手描きの円 (1975).

1977 年の教材．円を描く技術に kemajuan が見られるし（テンプレート利用できれいな円が描けるようになった），ネズミと波平氏も揃っている．

ekor & isteri（尻尾 & 妻）

「ネズミは長い尻尾をしている」という日本語の文は，Tikus berekor panjang というインドネシア語に直せる。日本語では，動詞「する」を「長い尻尾をしている」というこんなところでも使うわけだが，インドネシア語の方は「長い尻尾」ekor panjang を語幹とする接頭辞ＢＥＲによる派生語 berekor panjang でもって「長い尻尾をしている」を表現する。



インドネシアの学者，例えはアリシャバナはこの接頭辞ＢＥＲの基本的な意味は「所有，存在」であると説く。それはそれでよいのだが，その際に全体と部分という認識が働いているのを見落としてはならない。

「所有，存在」と言っても，全体がそれを自らの構成部分として所有している，またそれが全体の中に構成部分として存在しているという関係が成立しないところではＢＥＲは使用されないのである。「ネズミ」tikus と「尻尾」ekor は言うまでもなくそういう条件を満足している。

「テーブルの上に眼鏡が存在する」ことを表現しようとする時にはこのＢＥＲは使えない。「テーブル」と「眼鏡」の間には全体と部分という関係が認められないからである。

それでは，「私」saya と「妻」isteri ではどうか。全体と部分の成り立つ関係にあるのかどうか。インドネシア語文法はその関係が成立すると認める。つまり「私は妻帯している，私は妻がいる」は Saya beristeri と言うことが出来るのであ

る。

「妻」を手足や尻尾のような体の一部と同じに考えるのは怪しからんという声が挙がるかも知れないが，「夫」も同様の関係にあるものと扱うのであるから，インドネシア語文法は女性蔑視の文法というわけではないである。[Sg 1993.8.20]

ネズミと波平氏と花咲く樹

人間には身なりという側面があって，動物のネズミより複雑だというのが，この波平氏のイラストである．

帽子が存在しているという点では，帽子が机の上にあろうが波平氏の頭の上にあろうが同じ．しかし，机の上の帽子と机との間には「全体と部分」という関係がない．他方，波平氏の頭の上の帽子と波平氏との間にはその関係の存在を認めうる．これが，Di atas meja itu ada topi. Topi itu ada di atas meja. と Tuan Namihei bertopi. の違いである．

この bertopi 同様に，Tuan Namihei berkaca mata（眼鏡），berambut tipis（髪が薄い）, berkumis（口髭）, berbaju（上着）, berdasi merah（赤いネクタイ） など，いずれも可である．[Sg 2007.4.8]

pohon（樹）

Album Ilustrasi からのイラストである。成る程インドネシア語で花は bunga、葉は daun、根は akar、等々と言うのか、絵入りだと分かりやすいな、と感心していただいても結構だけれども、本当はそのために描いた絵ではない。

樹の全体像を与え、その全体の構成要素として花や根を示す、それがこのイラストの意図。従って、ここにあるのは花は花でも、机の上の一輪の花の類ではなく、開花期の樹の全体を色鮮やかに彩って咲き誇る花である。

この樹のケースにおける全体 pohon と部分 bunga, daun dsb の認識については、鼠のケース同様、別段議論を呼ぶことはないだろうと思う。波平氏と奥さんのケースでは（相手次第では）大論争になりえても、である。

そして、全体と部分の表現となれば、これはもう BER- が専門。こうして上述の名詞はどれもこの接頭辞 BER- を用いて、berbunga（花が咲いている）、berbuah（実がなっている）、berdaun（葉を茂らせている）、berbatang besar（太い幹をしている）、bercabang dua（二股に分かれている）、berakar（根を張っている）と使うことができる。

この樹のイラストはこんな風に使う「きわめて文法的」イラストなのである。[Sg 9.23.98]

belajar & mengajar（学ぶと教える）

例えば，英文法では，"learn" するものと，"teach" するものが，概念的に別個の存在であるとは考えていないだろう。

両者とも，"learn, teach" という action をする actor であって，active sentence において subject になるものと扱って，同じものと認識している筈である。

ところが，インドネシア語文法では，「学ぶ」は BER-動詞，「教える」は ME-動詞という風に，別のカテゴリーに属する動詞としている。

これは別段，「学ぶ」ものと，「教える」ものとが概念的に違うものであると認識しているからではない，という考え方も成立しうるであろうが，私としては，インドネシア語文法の中に二つの違う概念があって，それによって，「学ぶ」は BER-動詞となり，「教える」は ME-動詞になっている，と考えている。

「学ぶ」ものと「教える」ものが違ったものであると認識することは，英文法で頭の中をフォーマットされた人達には難しいかもしれないが，日本人にとって分かりやすいことは，かっての紛争時代，学生諸君から「学ぶ」という行為は主体的行為であって，「教える」お前ら専門馬鹿の教師は teaching machine に過ぎない，などと吊し上げられているのが，何よりの証拠。

つまり，彼らの言葉をそのまま借りれば，「学ぶ」のは主体 ― だから「学ぶ」は主体的行為，他方「教える」のは機械で簡単に取り替えうるような存在。学生諸君は，"learn" するものと，"teach" するものは，斯様に違うとはっきり区別していたわけ。

ところで「学ぶ」主体はコンピュータ化しえない「主体」として，コンピュータ化大いに可能な「教える」主体とは何だろうか。英語そのままに「エージェント」と呼ぼうか。[Sg 1994.9.24]

holistik（全体論的）

この記事 "Perbedaan Budaya Pengaruhi Cara Pandang", 11 Aug 00 09:30 WIB (Astaga.com) は，アメリカ心理学会の文化と認知に関する部会における社会心理学者 Richard Nisbett 氏（ミシガン大学社会科学研究所）の発表のさわりを紹介したもので，なかなか面白い。

中国，韓国，日本などの東アジア人は，ものの認知の仕方がより holistik, menyeluruh（全体的）である傾向を示し，欧米人はより analitis（分析的）であるとされ，次のような実験も紹介されている。

Seorang Jepang dan seorang Amerika diajak melihat gambar animasi bawah laut. Ternyata Amerika lebih melihat hal-hal tertentu dari objeknya, sedangkan orang Jepang cenderung melihat keseluruhan. Misalnya, orang Jepang menyatakan telah melihat danau, atau kolam, sedangkan warga Amerika menyatakan melihat ikan hiu besar sedang berenang.

つまり，日本人とアメリカ人に海の中の様子を描いたアニメを見せた後，何を見えたか尋ねると，日本人は「海の中」と答えるが，他方アメリカ人は「大きな鮫が泳いでいた」と答える，というのである。

注）本文では orang Jepang menyatakan telah melihat danau,

atau kolam となっているが，深い海の中を大きな鮫が泳いでいる場面もあるアニメを見て，湖やらプールと答える日本人がいるなんてバカなことを考えるのはこの際ヤメて，単純に「海の中」とした。

日本人としては，gambar animasi bawah laut，すなわち「海の中」を描いたアニメを見せられた後，何を見ましたかと尋ねられて，「海の中」と答えただけ。それがアメリカ人と歴然たる認知の仕方の違いを表していると学会発表されれば，普通の日本人としては驚く他ないだろうが，日本人が大きな鮫が泳いでいる場面を見ても全然動ぜず，アメリカ人のように「大きな鮫が泳いでいるのを見た」なんて答える気にさらさらならなかったのは，「海の中」とは（全体）そういう大きな鮫も泳げば小さな魚の群も泳いでいるものであって，そうでなかったらかえっておかしい，そういう部分ないし側面があってこその「海の中」と考えていたせい。そして，この辺りになってくると，やはり holistik（全体論的）ということになり，欧米人の analitis（分析的）と対比させざるをえない，ということになるのかもしれない。[Sg 9.8.2000]

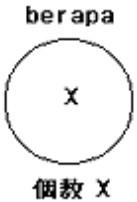
berapa（いくつ）

BER-派生語を円を描いて説明するのは私の十八番。

例えば berdua（ふたりで）には左のようなイラストを黒板に描く。ここに居る二人の人間は，手を繋いでいることからも分かるように，たまたまそこに居合わせたというような赤の他人の二人ではない。一緒に行動している二人，二人連れの二人である。berdua の語幹の dua (2) は，この一つの集合を形成し

ている要素（この場合，人である）の個数が dua (2) だというのである。

もし，たまたま無関係な人物がもう一人居たら？　その時は円の外にその人物を描く。彼は部外者である。kelihatan（見られる），kedengaran（聞かれる）などの KE-AN 派生語の成立に深く関わるのが，この円の外の人物である。



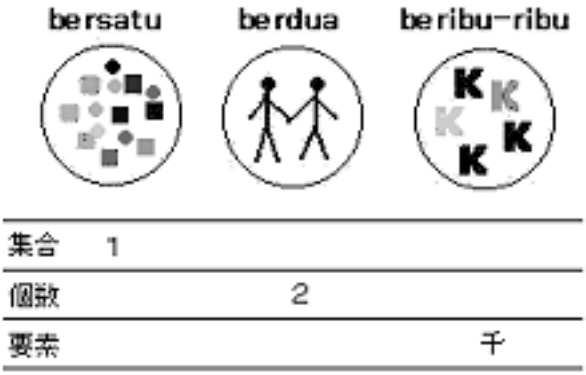
さて，インドネシア語で「いくつ」は berapa と言う。つまり apa（何）を語幹に持つ BER-派生語である。この「ＢＥＲ-エックス」が何故「いくつ」になるのか納得するには，円の中にエックスと書いてみても，いささか無理。そこでこうする。つまり，この berapa は berdua と同じものだろうと考える。とすれば，berdua が「個数　２」だから，この berapa では「個数　エックス」となる。∴「いくつ」。

これが berapa が何故「いくつ」を意味するのかの Sasaki 式証明なのだが，こんな風なインドネシア語における造語法と数学の接近にはとても興味深いものがあると私は考えている。[Sg 6.23.98]

集合・要素・個数

「集合」は himpunan，「集合の要素」は anggota himpunan だということは調べていたが，要素の数，すなわち「個数」はなんというのか知らなかった。そこで昨夏の BIPA の会議でジャカルタに行ったときに，中学１年用の数学の教科書 Matematika SLTP (Penerbit Erlangga, 1995) ３巻を買った。それを開いて見ると，第１巻，１学期用 caturwulan 1 の第

１章が「集合」himpunan。そして「個数」は Banyaknya anggota suatu himpunan disebut bilangan kardinal. とあるのを見つけた。[Sg 1996.1.30]



telah berdua（もう独りではない）

これもカラオケ。

- Semoga **kau berdua** bahagia
- Seakan dunia milik **kita berdua**

この「あなた方二人、私たち二人」の berdua は、言うてみればお馴染みの berdua。

しかし、次。

Mengapakah kita harus berjumpa
Di kala **kau telah berdua**

telah berdua、どうやら、もう恋人がいる、あるいはもう独り身ではない、という時にもこの berdua は使えると見える。[Sg 9.3.99]

夏休み前、一年生の教室でカラオケ CD を聴かせた時のこと。cinta って何だと、言う。これには考えさせられた。如何に一年生だとは言え、若い女の子が cinta って何？では情けない。しかし勿論、悪いのは彼女ではないので、使っている教材のせい。そんなわけで、例えばここに挙げたような文ばかりもっぱらカラオケの歌詞の中から選んで、自習用の和訳問題集を用意してやろうか、と考えているところ。[Sg 9.3.99]

bermobil-mobil（自動車何台も）

berjam- jam（何時間も），berhari-hari（何日も），berminggu-minggu（何週間も），berbulan-bulan（何ヶ月も），bertahun-tahun（何年も），berabad-abad（何世紀も）—— これは時間の長さ.

berpuluh-puluh（幾十），beratus-ratus（幾百），beribu-ribu（幾千），berkilo-kilo（何キロも），bergelas-gelas（グラス何杯も），berbotol-botol（ボトル何本も），）—— これは量.

次は「自動車何台，バス何台」という人数の参詣者が押し掛けるようになって，駐車場を広げなければならなかったという bermobil-mobil, berbus-bus の例.

Pelataran parkir pesantren kemudian diperluas karena jemaah dan peziarah selalu datang bermobil-mobil, bahkan berbus-bus.

[Sg 2005.12.16]

bersaudara kandung（実の姉妹関係にある）

"Kisah Tragis dari Ladang Pembantaian 16 Wanita" (Kompas, 4 Mei 1997) に，memiliki sembilan anak dari tiga wanita bersaudara kandung, Tum (39), Ngat (33) dan Sen (28)，とある。

この bersaudara は，辞書（Badudu-Zain, KUBI）で言うと，2. kakak beradik; 3 mempunyai saudara， の 2. kakak beradik の用例。この dukun は，三人姉妹を妻にして一つ屋根の下に暮らしていた，というのである。
bersatu が「一つの集合をなす＞団結する」，berdua が「個数が２の集合をなす＞二人連れ」，beratus-ratus 「百を元とする集合をなす＞数百の」に合わせて言うなら，bersaudara kandung は「実の姉妹という集合をなす＞実の姉妹関係にある」ということになる。[Sg 5.6.97]

接頭辞 BER- の練習問題

一年生のクラスで私がどのようにこの ber- 派生語を紹介して行くかその大体を知っていただくために，私が使っている教科書『インドネシア語の基礎』の接頭辞 ber- の章の練習問題を以下に引用してみます。この私が編纂した教科書は約９０頁で，４５～５０時間で仕上げます。

この接頭辞 ber- は「持つ，ある」という意味を表すとしばしば言われている。それはそれでよいが，ここで「全体と部分」

という物の捉え方が働いていることを忘れてはならない。「持つ」なら，それはある全体がそのものを全体の部分として「持つ」のであり，「ある」ならそのものがある全体の部分をなすかたちで「ある」のである。

サウブスティチューションドリル１
Gajah berbelalai panjang. （象は長い鼻をしています）
a) badan besar (大きな体) b) telinga lebar (幅の広い耳)
c) mata （小さな目）d) kulit tebal （分厚い皮膚）
e) kaki besar （太い脚）

この練習はなんら問題がないでしょう。欧米人でも，この象とその鼻，つまり象といかにもその動物の身体的部位である鼻などとの間に全体と部分の関係が存在することを認めるのを躊躇する者はなかろうと思います。

サウブスティチューションドリル２
Rumah itu bertingkat dua. （その家は二階建てです）
a) atap merah （赤い屋根）b) dinding putih （白い壁）
c) jendela biru （青い窓）d) enam kamar （６室）
e) halaman luas （広い庭）

ここでは，象のような動物ではなく，人間の手になる人工物，家です。これも幾つかの部分を持っています。家は屋根，寝室，などなどの部分から成り立っている全体です。確かに，ｅ）の「広い庭」というのは屋根や寝室などとは違います。それでも庭は建造物とともに構成する全体の部分としてあるわけです。

サウブスティチューションドリル３
Tuan Namihei berkacamata. （ナミヘイ氏は眼鏡をかけている）
a) kepala botak （禿頭） b) dasi merah （赤いネクタイ）
c) kacamata （眼鏡）d) topi （帽子）

e) isteri （妻）

ここに登場してくるのは動物でもなく物でもなくて，人間です。この漫画サザエさん一家の家長ナミヘイ氏は berkepala botak 「禿頭」です。これは簡単で，身体的な問題では人間も象も変わりありません。人間と象の違いが出てくるのは，身なりという面でです。机の上の眼鏡ならたんなるガラスとプラスチックで出来た物にすぎません。しかしその眼鏡をかけるとき，その眼鏡はナミヘイさんという人物そのものを構成するひとつの部分になっています。

そしていよいよ「妻」ということになります。夫婦の関係は上に触れたよう建造物と庭の関係と同じと見ることもできます。しかしもっと統合されているとも考えられます。もしも妻フネさんを失ったとしたら夫ナミヘイ氏はあたかも自分自身，己の一部を失ったかのように深刻な喪失感をもつのではないでしょうか。アメリカ人は夫婦の関係についてまた別の見方をもっているかもしれません。しかし，妻は自分自身，己の一部，インドネシア語文法によればそういうことになります。

ところでこのようなのは静的次元の自己の姿です。ここでもし動的次元の自己にスポットを当てるならば，bermain（遊ぶ），belajar（学ぶ），bekerja（働く）などなどの ber-動詞の長いリストがあげられることになるでしょう。[Sg 1995.12.27]

middle voice（中動態）

たまたま「中動態」を検索したら，以下がヒットした。

Step49 中動態

能動態と反射態（＝中動態）とは，ある動作が誰の為になされるかに着目した態の区別です。本来能動態は他者のための動作，反射態は自己のための動作で，たとえば「他人の為に祭祀する」には能動態，「自分の為に祭祀する」あるいは「自分のために（他者に）祭祀させる」には反射態を用いるのです。したがって，反射態は，その動作の結果が自分に及ぶものであることを表す点では，近代ヨーロッパ語の再帰動詞，代名動詞の機能を持つ一方，自分の為の動作であれば，たとえ動作主が自分でなくとも，他人にさせた動作でもよい，という点では「使役」の機能を持っているのです。

バンヴェニスト 1983.『一般言語学の諸問題』みすず書房。

誰が書いているのだろうと思ったら，東外大言語モジュール TUFS Language Module Grammar＞文法モジュール＞通言語文法＞文法項目一覧＞Step49 中動態，だった（上はその部分抜粋)。

21 世紀 COE (Centers of Excellence)プログラムの成果というわけで，やる方は大変だろうが，これは喜ばしい状況である。

上の解説に「他人の為に祭祀する」(能動態)，「自分の為に祭祀する」(反射態＝中動態) の例が出ているが，私がよく教室で使った例は「コンパをする」だった。飲んで騒げばいいクラスの連中が「コンパをする」のは中動態，会場・日時を決め，当日は座の盛り上がり具合に気をつかって酒を追加注文したりする幹事役が「コンパをする」のが能動態，という例である。

ところで，参考文献にあるバンヴェニスト Emile Benveniste

の中動態論というのは，次のようなもの。

能動態を「そのプロセスは le sujet に発し，その外で完成する」un proces qui s'accomplit a partir de lui et hors de lui と分析し（なんたる切れ味のよさ），それと対をなす中動態を「そのプロセスは le sujet がその場であるプロセスであり，le sujet はプロセスに内在する」un proces dont le sujet est le siege ; le sujet est interieur au proces と認識して，「能動 vs 中動」(中なんて真ん中にあってこそ，対立する 2 項の一つが中なんてバカな話）を diathese externe vs diathese interne, つまり「外 vs 内」という筋の通る対立に捉え直すというものである。

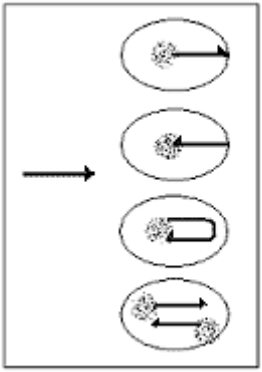
「コンパは幹事に発し，その外で完成する」，正にその通りではないか。幹事がコンパの中に入ってみんなと一緒に盛り上がったりしたら大変だ。un proces qui s'accomplit a partir de lui et hors de lui，能動の分析は欧米人にまかせるにしくはない。

いささか言い遅れた感があるが，BER-動詞には中動説があって，印欧語の中動態については，かつていろいろ読んだ。Benveniste の中動説は，その中の一押しである。

ここで思い出すのが，いつぞやテレビで見たゴーン日産社長，工場視察の場面。日本人工員曰く「頑張ります」(「自分」感覚に溢れた発言)，社長曰く「何をどれだけ達成するか，それを言いなさい」(「エージェント」感覚を持て，との発言)。これは面白かった。

向こうは能動態が得意，こちらは中動態が得意なのである。[Sg 1.4.07]

特殊な能動・受動・再帰・相互の BER-動詞



左の矢印を右の medan diri に落とすと，向きが変わったり，曲がったり，向きの違う二に分裂したりする実験のイラストである．勿論，こんな実験が出来たらいいのに，という実験である．

用例（上から）：
menjual (売る)： 特殊な能動 **berjual** (商う).
mengukir (彫る)： 受動 **berukir** (彫り物をしてある).
menjemur (天日に干す)： 再帰 **berjemur**(日光浴をする).
membagi (分ける)： 相互 **berbagi** (分け合う).

berbagi 登場前は memeluk (抱く) :「相互」berpeluk (抱き合う) の例を使っていた．しかし，このペアは，古典的にはそうかもしれないが, 今では「抱き合う」はむしろ berpelukan だろう，berpekuk は「抱きつく」くらいにしか見えないと言われたら，一言もなかった．「分かち合う」berbagi 登場は，救いの神だった．[Sg 2006.1.31]

Lentera Indonesia (Pusat Bahasa 編 BIPA 初級教材)

Pusat Bahasa も BIPA 教育に乗り出すらしく，BIPA 初級教材，Lentera Indonesia --- Penerang untuk Memahami Masyarakat dan Budaya Indonesia (2004) を出した。本 (204

頁)，CD-ROM１枚，カセット２巻がある。

単元１ は "Di Kedutaan Besar Indonesia" で，Billy Smith and Jane Fairchild went to the Indonesian Embassy in Canberra, Australia. と始まるところから見ると，先ずはオーストラリア人生徒がターゲットのようである。

以下は，単元２ "Di Bandara Soekarno-Hatta" の Tata Bahasa (Kata Kerja dengan me-, ber-, di-. Kata Tanya siapa) からである。

ME- を使う動詞 kata kerja/acting words： (この acting words の他に，形容詞 qualifying words, 疑問詞 asking words など，なかなか面白い)
1) Billy membaca buku.
2) Jane membuat visa.
3) Saya mengambil paspor.
4) Billy dan Jane mengisi formulir.
5) Saya menginap di hotel.
6) Nyoman melihat pramugari.
7) Billy mencari Jane.
8) Jane menyapu lantai.

「読む，作る，とる，記入する，泊まる，見る，捜す，掃く」の８語。

BER- を使う動詞 acting words：

1) Billy dan Jane berwisata ke Indonesia.
2) Saya berbelanja di pasar.
3) John belajar bahasa Indonesia.
4) Andi bekerja di kedutaan.
5) Billy bertopi.
6) Jane bersepeda.

7) Saya berkacamata.
8) Petugas itu berdasi.

「旅行する，買い物する，学ぶ，働く，帽子をかぶる，自転車に乗る，眼鏡をかけている，ネクタイをしている」の８語。

「旅行をし，買い物をし，学び，働き，視力矯正や身だしなみに気をつかい，少し遠いところには徒歩 berjalan kaki ではなく自転車に乗って行く」のは誰？ と問うのが，BER-動詞への佐々木式アプローチである。答えは「私たち自身」diri kita。

ここのところ，１２年前の『インドネシア語の基礎』(1994) では次のように書いた。

肉親や配偶者を持ち (beribu/suami/isteri/anak), 家庭を営み (berumah tangga), 塩の商い (berjual garam), 稲作 (bertanam padi) などの生業に努め，見だしなみに気を配って無精髭を剃り (bercukur), 疲れては横になったり (berbaring), 頬杖を突いたり (bertopang dagu), 遠隔地には汽車で移動し (berkereta api), また恋人と手をつなぎ合い (berpegang tangan), 抱き合い (berpeluk), 喧嘩をし (berkelahi), 病んでは治療を受け (berobat) たりするという，この BER-動詞のプロセスの中心にあってそれらを束ねうる概念は，agent にあらず，patient にあらず，我ら「主体」self であるというのが筆者の考えである。(p.35)

『インドネシア語の基礎』の KE-AN (p.74) ：

被害の「られる」動詞：「られる」のは誰？

雨に降られる： kehujanan
自転車を盗まれる： kecurian sepeda

時代に取り残される：　ketinggalan zaman
人に聞かれる：　kedenganran orang

上で使った BER-動詞の「するのは誰？」のフレーズ，この KE-AN の「<られる>のは誰？」とペアである。[Sg 12.22.06]

.bersedih hati（悲しむ）

マザー・テレサの死を伝える記事 "Ibu Teresa Tutup Usia" (Kompas, 6 September 1997) からの用例である。

1) Paus Yohanes Paulus II begitu mendengar bahwa Ibu Teresa meninggal dunia menyatakan **sangat sedih**, dan begitu terguncang. Ia secara khusus segera mendoakannya.

2) Presiden AS Bill Clinton, mengatakan **sangat bersedih hati** atas kematian Ibu Teresa. "Ia adalah seorang pribadi sangat mengagumkan. Dan, saya pikir,saya sangat beruntung pernah bertemu dengan dia beberapa kali," katanya.

用例 1) には，menyatakan sangat sedih とあり，用例 2) には mengatakan sangat bersedih hati とある。この sedih と bersedih の違いについてこう考えている。

つまり，sedih に限らず，喜怒哀楽はインドネシア語では hati の状態のようである。Hatiku sedih. や Dia sedih hatinya. のような表現をよく見るのも，sedih が，本来そのようなものであるからと考えられる。Dia sedih mendengar ... と言うことがあっても，sedih の後には hati が隠れている。そして，それはいつでも Dia sangat sedih hati(nya) mendengar ... や，Hatinya sangat sedih mendengar ... と交代する用意がある

といった塩梅である。

sedih というのが，こういう風にわれわれの hati がなる状態だとすれば，一体われわれはどういう状態になりうるのかというと，それが用例 2) の bersedih hati という状態である。bersedih hati は，われわれがなる状態。sedih は hati がなる状態。だから，Hatiku bersedih は無い，そういうことになる。[Sg 9.15.97]

bekerja (どこかに勤めること)

人間として大切なのは「働く」ことであって，「どこかに勤める＝雇われる」ことではない，bekerja と dipekerjakan の区別もつかないようでは情けない，なんて学生相手にしゃべった覚えもあるのだが，その肝心な bekerja がこういうことだったとは…
Coba kalau Anda bertemu seorang teman lama, pertanyaannya adalah kerja di mana?. Jadi, kategori bekerja itu selalu berarti menjadi pegawai di mana. Sejak masa kolonial arti bekerja itu ya semacam itu. Kalau Anda membuka usaha sendiri di rumah, dan sukses besar, maka Anda agak malu-malu menyatakan bahwa tidak bekerja.

Jakob Sumardjo, "Koruptor dan Politik Konsumtif" (Kompas, 22 Oktober 2005) からの一節である。

この情報，KBBI には見えないようだが，ジャワ語辞典 (Robson & Wibisono) の kerja の語釈 to have a job, be employed とも重なり合う。[Sg 1.27.07]

＊

「メルマガとブログ，いつも楽しみに拝見しています」という読者からメールを頂いた。すなわち，

チャットで知り合ったばかりの人からよくされる質問があります。
kamu di indonesia untuk kerja atau bisnis?
kerja ＝会社勤め，bisnis ＝自営，
というような暗黙の使い分けがあるようです。

＊＊

これで，以下が KKM に追加されることになった。

bekerja: (役所・会社に)勤める．B～ di mana? どこにお勤めですか．[Sg 1.28.07]

kelinci bertuksedo (タキシード姿のうさぎ)

Playboy versi Indonesia，つまりインドネシア版 Playboy (3月発行予定) への抗議デモなどが盛り上がっているが, 以下は, その本家 Playboy についての記事，"Banyak Artis Dunia yang Terorbitkan" (Suara Merdeka, 25 Januari 2006) から。

Biasanya kesan macho dan maskulin digambarkan dengan bentuk tubuh yang kekar berotot, tetapi tidak demikian halnya dengan Hugh Hefner. Dia lebih memilih kelinci sebagai simbolnya. Baginya, kelinci bertuksedo lebih mampu membangun citra maskulin dan menarik.

KKM 次版は，ここから「tuksedo タキシード，bertuksedo タキシード姿である」を拾った。

この kelinci bertuksedo (タキシード姿のうさぎ)，ロゴの kelinci berdasi kupu-kupu（蝶ネクタイを締めたうさぎ）は，身なりの BER- を使った表現だが，ここで ME-他動詞 memakai を使う場合は，kelinci yang memakai tuksedo, kelinci yang memakai dasi kupu-kupu のように, yang が必要となる。[Sg 1.26.06]

berkerudung（頭巾をかぶっている姿）

今年のお正月のこと。家内がよく世話をしているパジャジャラン大学から大東大に来ている交換留学生（彼女はいつも berkerudung 姿）を自宅に招いた。そのとき，彼女が友人も誘っていっていいか，と尋ねたとか。

そして，その誘いたい友人はこうだと彼女がこんな風な仕草をした，と家内が再現してみせてくれたのが「手拭いでほおかむりして顎の下でくくる」ようなジェスチャー。

鼻の下でこれをやれば「泥棒」のジェスチャーになる，あれである。

そりゃ余りにも日本的。そんな筈はあるまい，と帰国前のシャキル先生に確認したのだが，やはりそう，感が当たっていた。

つまり，頭巾姿であるということを示すのに確かにそういうジェスチャーはある。しかし，正確には「顎の下でくくる」んではなく，「交差して左右にはねる」仕草――そういうことだった。

「くくる」んではなく「はねる」。このジェスチャー，機会があったらお試し下さい。なお注を加えると，手のひらは開い

た状態です。[Sg 5.5.01]

pipi yang tidak bercukur（ひげを剃っていない頬）

インドネシア語には，kumis（口ひげ），janggut（顎ひげ），jambang (頬ひげ) などがあって，「ひげ」という言葉がない．あえて言えば，bulu-bulu di muka (顔に生える毛)かもしれないが，「猫のひげ，ナマズのひげ」も kumis (口ひげ) と言うようなわけで，「無精ひげ」という言葉も当然ないから，「三日間ヒゲを剃っていない，触るとザラザラする」などの以下の用例が無精ひげが伸びている様子の表現ということになろう．

- pipi yg tdk bercukur
- daguku yang tiga hari tidak bercukur
- aku lupa mencukur jenggotku hari ini. Kuraba daguku. Kasar seperti digosok dengan sikat halus.

「私の身だしなみ」としての行為 bercukur の場合は，左のイラストの円を「私」と読む．そして上に見える「いわゆる受動的」bercukur の場合は，この円を「頬，顎」などに読み換える．[Sg 10.27.07]

bertolak & berangkat (出発する)

タガログ語の辞書で, tulak: tumulak (-um-) v. to leave by boat, to depart by boat. を見て，これまで bertolak を単に「出発する」としか理解していなかったので，そうだったのかと慌てて KBBI を開いたら，如何にもそうだった。すなわち，

bertolak:
1. berangkat berlayar.
2. berangkat, pergi meninggalkan.

menolak perahu (岸辺のボートを川へと押し出す)。こうして Perahunya bertolak (ボートは出発する)。どうやらこういうことだったようである。

berangkat (出発する) について。

インドネシア語ではふつうに使えるが，マレー語では王族に用いる語である．そんなわけで，mengangkat (持ち上げる)：berangkat のこの「出発」は「輿」に関連する表現と考えられる。[Sg 12.3.06]

berfoto ＆ memfoto/difoto (写真を撮る)

先ずは berfoto の用例。

Dubes RI untuk Jepang Jusuf Anwar dan istrinya **berfoto** bersama dengan perancang busana asal Jepang Kansai Yamamoto di Tokyo, Sabtu (24/5). (Antara, 25 Mei 2008)

この大使夫妻がデザイナー山本寛斎氏と一緒に撮った写真，berfoto bersama の絶好のサンプル写真である。

同じ「写真を撮る」でも，カメラを構えシャッターを押す方は，memfoto である。

Sejak mendapatkan hadiah Nobel, dia (＝2007 年ノーベル文学賞受賞者 Doris Lessing，88 歳) mendapat banyak tawaran dari media, katanya."Yang saya lakukan hanya memberi wawancara dan **difoto saja**."Mengenai kegiatan menulis dia mengatakan, "Sudah berhenti, saya tidak memiliki energi lagi.("Lessing: hadiah Nobel 'bencana'", BBC, 11 Mei, 2008)

受賞後している仕事は，インタビューを受けて「写真を撮られるだけ，**カメラの被写体になる**だけ」difoto saja の用例である。

プロのカメラマン，プロの写真モデルが活躍するのは，こちら memfoto/difoto の場においてである。berfoto のプロなんてものは考えられない。プロの教師は考えられても，プロの生徒なんて考えられないのと同じことである。[Sg 5.25.08]

mandi berendam（風呂に入る）

日本人の風呂は湯船に浸かる入り方。これをインドネシア語で言うと，mandi berendam ということになる。

下の用例は漫画ドラえもんの記事から。シズカちゃんというのが，お風呂好き gemar mandi berendam の女の子だったとは知らなかった。

Sebagai teman bermain bagi Nobita, ada Minamoto Shizuka, gadis yang diam-diam dicintai oleh Nobita. Shizuka yang gemar mandi berendam ini memang berwajah manis dan disayangi semua orang.

数年前，日本土産はドラえもんの人形と子供にせがまれていたインドネシア人と一緒にドラえもんを求めて東京タワーの

お土産品屋を軒並み探し回ってついに見つけられなかったという経験があるが，この記事 "Anak-anak Bisa Belajar dari Doraemon" (Kompas Online, 14 Desember 1997) ——日本でテレビ放映開始が１９７９年，RCTI への登場は１０年遅れて１９８９年。正式ライセンスによるドラえもん・グッズの販売となるとつい一年前——を読んで，よく分かった。もう大丈夫，二度とああいう羽目に陥ることはないだろう。

memegang（掴む）: berpegang（掴まる）——このイラストを黒板に描くとき，memegang（掴む）の方は，例えば「吊り輪」とそれを掴んでいる「手首」の絵を描けば充分である。

これに対して berpegang の方はそれだけというわけにはいかない。その手首に腕・肩を描き足し，そこから要するに人物の全身像を描かなければ，berpegang（掴まる）のイラストレーションにならない。

こんな風に，memegang には "object"（吊り輪）と "agent"（手）が揃えばそれでいいが，berpegang の方には "subject"（例えば，電車に乗ったらカーブで揺れたりした時にバランスを失って倒れたりすると危ないから用心のために姿勢を確保する必要を自分として感じる——そういう存在）を登場させなければならない。黒板にイラストを描いて考えると，memegang 「他動詞」，berpegang 「自動詞」は，こういう風になる。

merendam（浸す）: berendam（浸る）についても同様。ここではむしろ，merendam の方に工夫がいりそうで，berendam のイラストは簡単。シズカちゃんは肩までお湯に浸かっているとして，顔だけ描けばいいから。[Sg 12.14.97]

memijak vs berpijak（踏む vs (踏みしめて)立つ）

ME-動詞 vs BER-動詞のペアは，belajar(学ぶ) - mengajar(教える) を筆頭にいろいろ書いてきているが，この memijak(踏む) - berpijak((踏みしめて)立つ）は初めてである。

memijak - berpijak のイラストである。memegang では「握る手」のイメージがあれば充分であるように，memijak では「踏む足」があれば充分。それに対して，berpijak には「berpijak している主体」(自己，diri，self，subject) のイメージが必要である。そこでこのイラストというわけである。memijak には，ペットボトル圧縮器「マルチプレス」の広告を借りた。

「会社は自分たちを道具のように扱って，人間として見ていなかった」（解雇された米国・労働者の言葉）--- 会社が自分たちを「握る手，踏む足」(agent) としてのみ扱って「 berpegang, berpijak する主体」(自己，diri，self, subject) と見ていなかった，解雇されてそれが分かった。中庭ノート的立場から言うとそういうことになる。

ところで，今 memijak - berpijak を取り上げたのは，以下の記事を読んで, tanah tempat mereka berpijak (彼らが立っているその大地) に出会えたお陰。

Fotografer Wang Qiang sudah siap memotret sepasang mempelai laki-laki dan perempuan yang telah berpose ketika tanah tempat mereka berpijak bergetar dan terus berguncang dengan kerasnya. ("Saat Gempa Bumi 'Menyambut' Pesta Pernikahan", SH, 25 Mei 2008)

今，berpijak を「立つ」と読んだが，「三十にして立つ」(論語) の「立つ」は，言うまでもなく，diri そのものを語幹とする berdiri である。(七十は從心所欲不踰矩)

日本語で自動詞・他動詞と言う場合，yang berpijak, yang dipijak に注目している．[Sg 5.24.08]

berhujan-hujanan（雨に濡れる）

kehujanan と berhujan-hujan は，<雨に濡れる>という点では全く同じ。

両者が決定的に違うのはどこかというと，前者 kehujanan が，出来れば経験したくない<雨に濡れる>不快な体験であるのに対して，後者 berhujan-hujan は大いに積極的，子供が喜んで雨の中に飛び出して行くとか「春雨じゃ濡れてゆこう」の心境での<雨に濡れる>，であるところにある。

その kehujanan でない berhujan-hujan の方なのだが，一年の読本に使う小学国語 BAHASAKU 1A の SAKIT の章に berhujan-hujanan というのが出てくる。すなわち，

Tidak apa-apa, kata Pak Dokter.
Kamu sakit selesma. Barangkali kamu **berhujan-hujanan**.
Minum obat ini! Sehari tiga kali! Sekali telan sebutir pel!
Besok kamu telah segar kembali.

標準語で berhujan-hujan，ジャカルタ方言式で hujan-hujanan。しかしここは，そのどれとも違う berhujan-hujanan である。

グーグルで検索すると，ヒット件数は，berhujan-hujan ４２件，hujan-hujanan ５６件。これに対して berhujan-hujanan ９件。なんでこういう berhujan-hujanan が小学国語 BAHASAKU 1A に登場するのか解せないというのが，正直なところである。[Sg 7.18.03]

bertepuk tangan（手を叩く）

「拍手する」だが「手を叩く」とも言う。

berjalan kaki は，普通「歩く」で，「脚を動かす」とは言わない。しかし berjalan kaki で，我々は事実，脚を互い違いに動かして移動している。

ならば，bertepuk tangan の tangan，berjalan kaki の kaki は，「対象」かと問われると，我々は「拍手する」ときの手を，「歩く」ときの脚を，そんな風に「対象化」してはいない，と言う他ない。これが BER- 動詞の世界。

歩き疲れて疲労困憊する。自分の脚なのに人の脚のよう。自分の思うように自由に動かせない。この脚が叩いても何しても，もう一歩も前へ運べない。私が agens に，私の脚が patiens に分裂する。これが，ME-動詞の世界。

朝から純金箔入り焼酎おがわ小町を飲み続けだし，横目で見ているつけっぱなしのテレビではビリー・ジョエル/エルトン・ジョン夢の競演，ということでちょっとオクターブが上がりました。連休たけなわに免じてお許し願います。[Sg 5.4.98]

bertolak pinggang（両手を腰にあてて両肘を張った姿勢）

IMF の Michel Camdessus 専務理事が傍らに立って傲然と見下ろし，テーブルに向かった老大統領は背を丸めて IMF への降伏文書に調印。

これはテレビで何度か流れた映像なので，ご覧になった方も多い筈だが，事実はともかく，一見あたかもそんな屈辱的なシーンであるかのような印象を残さないものでもない映像ではあった。そのことと大いに関係があると思うが，bertolak pinggang という表現を見た。（なんたる失策，そのファイルが今見つからない）。

bertolak pinggang というのは，両手を腰にあてて両肘を張った姿勢。辞書を開くと，bercekak pinggang, berdiri dng kedua belah tangan diletakkan di pinggang seperti kebiasaan orang Barat kalau bercakap-cakap (Badudu-Zain)。こういう傲慢な態度でふんぞり返る IMF 代表，というのである。

テレビで流された映像で見る限りでは，カムデスス氏は腕組みをしていて，bertolak pinggang していない。事実として同氏がそういう姿勢を取った瞬間があったというより，あの映像全体の屈辱的調印式という印象が書かせた bertolak pinggang だったろうと思う。

文法的な話をすると，この bertolak pinggang（腰を押す）を初めとして，berpangku tangan（手を膝に置く），berpeluk lutut（膝を抱く），bertopang dagu（顎を支える），berpeluk dada（胸を抱く），berpeluk tangan（腕を抱く），berpeluk tubuh（身を抱く），bersilang tangan（腕を交差する）など，こういう姿勢・態度を表現するのも BER-動詞本来の役割。

そういうわけで，「顎を支える」とは頬づえ，「胸・腕・身を抱く，腕を交差する」は腕組みの姿勢。腰・手・膝・顎・胸・腕・身など，みな自分のそれである。[Sg 4.18.98]

bertolak belakang (相背反する，全く正反対である)

"Ketika Keyakinan Sutiyoso Meleset" (Liputan6.com, 03/02/2007) --- この記事は，スティヨソ知事が 2002 年に続く５年サイクルの大水害は繰り返されないと言明したのはつい昨年１１月（気象庁予報では大雨の線は出ていなかったらしい）だった，という段落に続いて，次ぎがくる。

Pernyataan Sutiyoso justru bertolak belakang sama sekali dengan kondisi yang terjadi di Jakarta. Banjir mengepung hampir semua wilayah. Air meluap tak terbendung. Di beberapa titik ketinggian banjir bahkan mencapai atap rumah.

この bertolak belakang とは「背中を合わせて押し合う」姿，ここから「相背反する，全く正反対である」ということになる。

bertopang dagu「頬杖をつく」，berpeluk lutut「膝をかかえる」，bertolak pinggang「両手を腰にあて肘を張る」(傲慢な態度と評される）などの姿勢の場合と違って，ここは berjabat tangan「握手をする」と同じく <登場人物> が二人である。[Sg 2.11.07]

berobat mata（目の治療をする）

先ず，berobat mata を含む用例を掲げる。
Mahkamah Agung mengeluarkan putusan itu setelah

Imelda minta izin untuk berobat mata ke luar negeri.

目の治療のために出国許可を求めていたイメルダ夫人に対して，フィリピン最高裁はこれを認めないという決定を下したという記事 "Imelda Marcos Dilarang ke Luar Negeri" (Kompas, 21 Agustus 1997) からである。

この berobat mata するのは誰かと言えば，用例から明らか。目の異常をかかえたイメルダ夫人である。berobat はこういう風に，われわれのする行為であって，医師が専門家としての知識技術を振るってする行為ではない。これが，インドネシア語文法。

それでは，日本語で「治療する」のは誰だろうか。われわれ＝患者なのか，医者なのか。辞書を引いても，「病をなおすこと」（広辞苑）で助けにならない。

参考までに私の親父の例を言うと，親父は随分昔に胃ガンで亡くなったが，その前に手遅れながら手術をしていた。婦人服屋でも胃を手術していいのが日本語，というよりも，日本語では「手術をする」のはむしろわれわれ＝患者の方で，外科医はせいぜい「執刀する」のかも。

ちょうど，「法事をする」と言ったら，それは父親を亡くしたわれわれで，法事にお坊さんがいないことにはどうにも始まらないが，お坊さんのすることと言えば「読経」，という具合に。[Sg 8.23.97]

berbagi（分かち合う）

membagi 「分ける」に対して，互いに「分け合う，分かち合う」を意味する。客員教授ウィンカルジョ先生の前任者，ス

ディ先生のお別れの挨拶のなかに出てきた berbagi suka duka「苦楽を分かち合う」という表現で，初めてこの ber- 動詞を知った。インドネシア人はお菓子などを自分一人だけで食べないで，suka berbagi dengan teman「友達と分け合うのが好き」など (Intisari, Okt 1987) と使う。

merebut「奪う」に対する相互の berebut「奪い合う」と同じもので，昔からあって全然おかしくないのだが，何故か辞書には，マレーシアの Kamus Dewan (1984) にも，インドネシアの KU (1961), KBBI (1988) にもなくて，KBBI 第２版 (1993) になって初めて出る。これは，要するに前の辞書がうっかり載せ損なっていただけなのか，それとも信じられないが，KBBI (1988) に間に合わなかった位の新語なのか。コーネル第３版 (1989) も見出し語には立てているが，Kasih sayang tak pernah berbagi.「愛情は決して二つに分けうるものでない」という古風ないわゆる受動の用法を引いたもので，相互の「分け合う，分かち合う」ではない。[Sg 1994.7.1]

berbagi suami (夫をシェアする)

同性愛をとりあげた映画「アリサン」Arisan (2003) の監督 Nia Di Nata の最新作 (2006 年３月公開予定) は，一夫多妻をとりあげて，題名は "Berbagi Suami"(夫をシェアする)。

この berbagi（分け合う，シェアする）は，決して前からあった動詞ではない。

辞書情報：

・Poerwadarminta, KUBI (1976) ：なし。
・コーネル第３版 (1989) ： 見出し語に立てているが，Kasih sayang tak pernah berbagi.「愛情は決して二つに分けうる

ものでない」という古風ないわゆる受動の用法を引いたもので，相互の「分け合う」ではない。
・KBBI: 初版 (1988) になく，berbagi: membagi sesuatu bersama として登場するのは，KBBI_2 (1991) からである。

berbagi suami (夫をシェアする) は，その最新用例ということになるだろう。

もっと実用的な用例を覚えておくとすれば，例えば検索でヒットした以下，大学の学生寮の話である。

Dalam asrama tradisional, penghuni asrama berbagi fasilitas kamar mandi tapi universitas dan kolese sekarang banyak yang menawarkan kamar dengan kamar mandi di dalam (en-suite rooms).

Pelajar yang lebih muda biasanya berbagi kamar dengan empat pelajar lain yang sebaya; pelajar yang lebih tua dapat tinggal di kamar sendiri.

「部屋などをシェアする，共同で使う」—— こっちの方が「夫のシェア」より使い途があるだろう。

次ぎは，1987 年の用例。上の「夫を，部屋を」を伴っている例に対して，これは「何を」を伴っていない用例である。

Kalau makan atau minum sesuatu, tawarilah teman Anda, walaupun sebenarnya Anda tidak berniat memberinya. Menawarkan dianggap sopan.
Orang Indonesia suka berbagi dengan kenalan-kenalannya. Jangan terkejut. Anda mungkin harus berbagi pula dengan teman-teman Anda. ("Dari buku pintar Operation Raleigh", INTISARI, Oktober 1987)

初めてインドネシアを訪れる欧米の青年達へのオリエンテーションから，である（日本の学生には，ここまでのオリエンテーションは要るまい)。

Operation Raleigh について：
http://www.raleighinternational.org/

【まとめ】 この「分かち合う」berbagi, 1980 年代半ば以降に，英語 to share に対応する語として登場した，とまとめておこう。[Sg 2.1.06]

diri (自己)

「インドネシア語の基礎」の接頭辞 BER のところに，磯野家の波平氏が口髭をはやしている，禿頭である，眼鏡をかけている，赤いネクタイをしている，フネさんという奥さんがいるという練習がある。そのときに円を描いて説明をするのが，佐々木式である。

かってマレー人の知人に，この円は何の円だろうと訊ねてみたことがあった。lingkaran diri 「diri の円」と呼んでいいだろうというのがその時の答えだった。「波平氏が口髭をはやしている，禿頭である，眼鏡をかけている，赤いネクタイをしている，フネさんという奥さんがいる」とは，波平氏の何を説明しているのかというと，彼の diri を説明しているというわけだ。波平氏が自分の口からそのようなことを言えば，「自己紹介」ということになる。diri とはこのような概念に与えられた名である。

menampilkan diri yang bukan dirinya yang sebenarnya (本当の自分でない自分を装う), ia sadar bahwa dirinya berubah banyak (自分がすっかり変わってしまったことに気付いた),

aku sudah memperkenalkan diriku (僕はもう自分の自己紹介をした), Apakah itu karena diriku? (それは私というものがいたせい？), などの「己，自己，自分，自分という存在」, harga dirinya (彼女の自尊心), kepercayaan diri (自信), menahan diri (自制する), bunuh diri (自殺), などの「自」, adanya sesuatu pada diri putrinya (彼女の娘の身になにかあったこと(を感じた)), Ibu terlalu mencemaskan diri Yul (母さんはあなたの身が心配でならない), mengorbankan diri (身を犠牲にする), などの「身」などにあたり，例えば，membela diri も「自衛，護身，自己弁護」などと訳せるわけ.

インドネシアの辞書のなかでこの語にどんな語釈を与えているのか覗いてみると，KBBI は orang seorang (terpisah dari yang lain), badan としている。ここに見える badan は「身」より具体的に「からだ」，確かに Dilarang menyentuh diriku (私に触れないで＝頭にきた妻が夫を牽制したコトバ) の用例もあった。

また辞書ではないが，英語の oneself が，インドネシア語では，再帰動詞の目的語なら diri, 強調なら sendiri というように使い分けられるという発想に立って diri と sendiri を扱った論文，Bambang Kaswanti Purwo, "Verba Refleksif dan Pemarkah Emfatis di dalam Bahasa Indonesia" Pusparagam Linguistik & Pengajaran Bahasa (Editor: Bambang Kaswanti Purwo, 1986) の中に "pribadi secara keseluruhan" と述べているのが見られた。

この diri が，接頭辞 BER- をとって berdiri となるとき，「立つ」の意味になるのはとても興味深いと思う。[Sg 1994.8.21]